

風景を耕す、その悦び



2024 年11 月16 日（土）

会場 奈良文化財研究所 大会議室
主催 奈良文化財研究所 文化遺産部 景観研究室

風景は、目に見えるもの（visible）と目に見えないもの（invisible）との関わりによってできています。いずれも、その土地に生きる人たちが、環境と手を取り、生み出してきたものです。だから、この先の風景を考えることは、私たちがこれからをどう生きるかを考えること、そのものと言えるでしょう。

今年は文化財保護法に文化的景観の制度ができて20年の節目の年です。20年がたち、風景や暮らし、地域への理解が深まった反面、なにか突破できないものがある。もっと楽しくならないのか！特別なものがないかにすごいかということよりも、当たり前の中にある豊かさや強さを求めていきたいと考えます。

そこで、今年の文化的景観研究集会は「風景を耕す、その悦び」というテーマで開催します。座談会では会場のみなさんと車座になってこれからの風景について話し合いたいと思います。また、文化的景観20周年祭を盛り上げるべく、ポスターセッションも開催します。文化財に限らず、様々な立場で風景や地域に関わる皆さんと、ともにこれからを考える場としたいです。

講演

「イタリアにおける風景論—都市からテリトリーオへ」
陣内 秀信（法政大学・イタリア都市史）

「工作者／耕作者の風景」
石川 初（慶応義塾大学・ランドスケープアーキテクチャ）



スケジュール

- 12:30 受付開始
- 13:00 - 13:10 趣旨説明 恵谷浩子（奈良文化財研究所）
- 13:10 - 14:10 講演1「イタリアにおける風景論—都市からテリトリーオへ」
陣内秀信（法政大学）
- 14:10 - 14:20 休憩
- 14:20 - 15:20 講演2「工作者／耕作者の風景」 石川初（慶応義塾大学）
- 15:20 - 16:00 ポスターセッション コアタイム
- 16:00 - 17:30 座談会「風景を耕す、その悦び」
陣内秀信、石川初、進士五十八（東京農業大学名誉教授）、
本橋仁（21世紀美術館）、栗生はるか（一般社団法人せんとうとまち）、
小浦久子（奈良文化財研究所）、恵谷浩子、ほか
- 17:30 - 17:45 ベストポスター賞授与式&閉会挨拶

講演者プロフィール

陣内秀信

法政大学特任教授。専門はイタリア建築史・都市史。地中海学会会長、建築史学会会長、都市史学会会長を歴任。受賞歴にサントリー学芸賞、地中海学会賞、イタリア共和国功労勲章など。著書に『東京の空間人類学』（筑摩書房、1992年、サントリー学芸賞）、『都市のルネサンス—イタリア社会の底力』（古小鳥舎、2021年）、『トスカーナ・オルチャ渓谷のテリトリー—都市と田園の風景を読む』（共著、古小鳥舎、2022年、日本建築学会著作賞）など。

石川初

慶応義塾大学教授。専門はランドスケープ・アーキテクチャ。外部環境のデザインや地図の表現、地域景観などの研究・教育を行っている。東京農業大学造園大賞受賞。著書に『ランドスケール・ブック』（LIXIL出版、2012年）、『今和次郎『日本の民家』再訪』（共著、平凡社、2012年、日本建築学会著作賞、日本生活学会今和次郎賞）、『思考としてのランドスケープ—地上学への誘い』（LIXIL出版、2018年、日本造園学会賞著作部門）など。

参加申込

参加申込は右のフォームからお願いいたします。
申込締切は11月 10 日で、会場の定員は100名です。
オンラインでの配信は講演部分のみとなります。



申込フォーム

ポスターの募集

ポスターセッションの開催にあたり、文化的景観に関わるポスターを募集します。応募要領等は別紙「ポスター募集のお知らせ」をご参照ください。なお、ポスター内容の事前審査をおこない、ベストポスター賞の授与も実施します。多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

問い合わせ先

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 文化遺産部景観研究室（担当：恵谷 浩子）
〒630-8577 奈良県奈良市二条町 2-9-1
TEL：0742-30-6816 E-mail：keikan_nabunken@nich.go.jp